第 2017-11 号

恵みと真理のニュース

2017 年 3 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

恵みと真理教会に属して礼拝中心、御言葉中心の人生を生きるように導いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます

ハレルヤ！私はイエス様を救い主として信じ教会を熱心に仕える家庭で生まれ子供の時から多くの祝福と愛を受けながら育ちました。両親が恵みと真理教会を愛し熱心に奉仕する姿を見ながら自分も幼いから熱心にに礼拝を捧げ奉仕し教会をとても愛するようになりました。

子供のごろ母は礼拝中心の生活を見せてくれて私にも主日礼拝は必ず守って平日礼拝と児童区域礼拝も熱心に参席させました。また、毎日のように聖書を読んで讃美歌を歌わせるようにしました。そうして、私は主の中で神様の愛を感じながら育ちました。しかし、青少年期は神様の愛が鈍くなて親にも反抗し始めました。礼拝と教会で奉仕するのがおろそかになって神様に対する信仰が揺れました。聖書と離れて礼拝もおろそかになりました。

その中でも神様は私を愛して母と教会学校の先生を通して続けて教会に来て礼拝を捧げ奉仕をするように導いてくださいました。修練会で聖霊充満になり神様との関係が回復して以前よりもっと信仰が進みました。祈りに答えられ神様の愛を深く体験しました。そして、以前は他の人の事だと思っていた福音伝道の清い使命とビジョンを受けました。

高等部の修練会が終わって日常の生活に戻って以前より神様を畏れ委ねながら礼拝生活に最善を尽くしました。試験期間になって友達はみんな塾で頑張って勉強をしている時に平日礼拝に参席すると心配していた友達もいましたが、何よりもまず礼拝を最優先と思って礼拝から捧げました。その時から主に御言葉と聖霊で私の心に平安を与えてくださり、信仰の大胆さと知恵と明哲を与えてくださいました。

信仰で生活をしたら神様は私の成績が上がるようにしてくださり、友達関係も仲良くなるように摂理してくださいました。以前には点数が低かった国語、英語の科目でむしろ目立つようにしてくださいました。特に教会生活を通して上手に話せるようにしてくださり何事にも責任と使命を持つようにしてくださいました。神様がくださった特技を通して学校会長になるようにしてくださいました。そして、教内で福音化のため力を出して神様に栄光と賛美を捧げるようになって学校と教会生活の全てが楽しくて幸せでした。それだけでなく、体もよく疲れましたが神様が健康もくださって体育も目立つようにしてくださって名門大の体育学科を目標する入試を受けることが出来ました。真の驚くな神様の恵みでした。

このように主と深く交わる中で神様がくださった才能で私はもっとビジョンを具体化し始めました。当時にはWCCプサン総会を控えて当会長の牧師がWCCに対して詳しく話してくださって私はもっと聖書的な正しい信仰を持つようになりました。社会は世俗化になり福音が歪曲されて変質され多くの教会と聖徒が宗教多元主義と混合主義に従い、背教の道で行く悪い時代を神様は見せてくださり、私に憐れむ心を与えてくださいました。その中で神様の希望は教会にあってその中で特に私たちの教会と聖徒に時代的に思い使命を与えてくださいました。

祈るの中でイザヤ6章8節の"そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」という御言葉か私の心を響きました。清い神様が弱くて足りない私を用いてくださると思いました。しかし、私の欲は今まで準備してきた体育大学の進学を願っていた希望と周りの人々から認定をもらっていると思った高慢な心をすぐ下すことはできませんでした。そして、神様の国と義ではなく自分の目標ため力を出しました。すると、礼拝を捧げても神様の臨在が感じられなくて、健康もとても悪化され帯状疱疹にかかって学校と礼拝も休むようになりました。

大学入試の時期になって主が私を叱って呼んでいるにも関わらず自分が願っていたソウルの目標をしていた有名な大学に志願しました。そして、個人的にはまったく切ない心もなくもしかして神様の御心だと思って神学大学にも志願しました。

受験日になって試験を受ける時に、国語試験時間に問題が出来ました。終了5分前には問題を全部終えて移して書かないといけないのに手首時計が壊れて残り時間を見なくて答えを移さなくて試験が終わってしまったのです。普通は国語科目は英語と共にいつも上位だった科目なので衝撃が大きかったです。その時間自分のため祈っている母と父の姿が思いだしました。休みの時間に落胆した心を安定するため祈るときに御言葉が思いだしました。" わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。 天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている。（イザヤ書55：8，9）

試験が終わって家に戻って親にすべてを話をしたらむしろ心配しないようにと励ましてくださいました。祈りながら神様に私の将来とすべての事を委ねったと話しました。私は神様を 恨んだり自責したり、落胆せずに、入試を諦めなく神様の思いと導きを願いながら母と共に断食祈りをしました。そのように断食祈りを始めて27日になる日、神学大学から合格したというメールを受けました。それも27目に合格したと聞きました。その話を聞いて神様の御心だと確信して神様が生きておられる事と導きを賛美しました。しかし、そのように入学した神学大学で福音的で保守的な神学大学で1年は必修科目の授業を聞くうちに先生が聖書に反する福音の心理から外した主題と内容で聖書御言葉の権威を落とすのを見て大きい衝撃を受けました。私は感謝するのが私の教会で続けて信仰生活をしながら大人が捧げる礼拝を主日と平日でもよく参席して当会長の牧師の説教を聴いたので非聖書的な講義を分別することが出来ました。

しかし、学生は分別出来なくてアメリカで学位を受けた神学教授の教えで今まで聞いたことがない新しい知識で興味を下さる理由で陥りました。さらに学校の授業と別にして健康な教会を妨げる話をして集いの先輩を通して教会で熱心に奉仕をする学生達を迷わす話をすることを知りました。私にも話しかけられました。

私は信仰を良心で見るだけではなかったです。勇気を出して教授と先輩達に覚醒を促しました。しかし、むしろ迫害が酷くなりました。私は学点を期待できなくてその教授の科目を辞めました。そして、かわいそうに思ってこのことに関連する報告書を作成して教会の教役者を通して当会長の牧師に話しました。すぐ牧師は私を呼んでくださり、私を慰めと励ましたくださいました。忙しい中でも長い時間私に良い話をしてくださって、私と家族のため祈ってくださいました。すると苦しかった心がすっきりして私たちの教会を愛するようになりました。

私は今回大統領の弾劾事態で恵みと真理教会に対してもっと自負心と矜持を持つようになりました。当会長の牧師が説教御言葉で現在の国状況が深刻な国家安保と教会の危機感を強調して話してくださり、特に青年達に理解できるように説明してくださって本当にありがとうございました。"真実を知ってほしいか？知ったら真実の味方につくだろうか？“聖書を信仰とすべての行為の標準として信じているのだろうか”という質問にはい。そうです。と確信して答えることが出来ました。それで、未来を心配し、愛国愛族と教会を愛する心で祈って行動するようになり、私たちの教会の青年たちと一緒に愛国集会に参加するたびに胸がいっぱいな感動を受けました。

私は今まで主がくださった使命とビジョンのため学業にもっと忠実して教会学校でも熱心に奉仕しながら日々新しい恵みの中で生活しています。恵みと真理教会に属して真理充満で礼拝中心、御言葉の中心の人生を生きるように導いてくださって、神様の望みと恵みを感じながら生きるように与えてくださる神様に感謝します。

［信仰コラム］　永遠の命にあずかるように定められている者

＂異邦人たちはこれを聞いてよろこび、主の御言をほめたたえてやまなかった。そして、永遠の命にあずかるように定められていた者は、みな信じた。＂（使徒言行録 13:48）

誰でも救いに関連して質問を持つということは良いことであります。そして、その質問に対する正しい答えを持つようになるとしたら極めて福のあることです。救いの法則は神様が定められたことです。単純で明瞭であるが、一方ではその中に私達の理解が及ばない神秘があります。従って、神様は聖書に啓示されたお言葉について私達に理解することだけを求められません。理解できなくても信じて従うように言われます。救いの福音について人々が持つようになる質問の中で二つを調べてみます。

まずは、＂福音を聞いたことがなかったり福音を聞いても信じないので滅びを受ける人がいる反面、福音を聞いた後に信じ、救いを得る人がいます。このようになる原因は何ですか？＂という質問です。

本文に＂定められた＂と翻訳された聖書原語は過去完了受動態分詞として神様によって既に決定されたことを意味します。ならば＂福音を聞いたことのない人と福音を聞いても信じない人々はとても残念ではないのか？このように行うのが神様の公義に合うか？＂という質問をするでしょう。新約聖書ローマ書 9 章でその問題を扱っています。神様から霊的や肉的や特別な恵みを多く受けた人々、神様が選ばれた民であるイスラエルの人々が神様が送りなさった救い主であるイエス様を排斥して十字架につけて殺すことに加わりました。アブラハムの子孫だとして全てが神様の選択を受けた者ではないということです。アブラハムの息子イシマエルとイサクの中で選択された者はイサクです。イサクの双子であるエサウとヤコブの中ではヤコブが選択されました。神様の選びは人の行為に従う結果ではありません。エサウとヤコブが出生もする前にヤコブが選択を受けました。罪の中から生まれて神様の怒りと審判の下にいる人々の中で哀れみを受ける者を定めて永遠の命を与える者を選ぶのは神様の絶対主権であります。これは神秘に属したことなので人が全て理解できないのが当然です。しかし、これを信じることはできます。

次は、＂自分が神様の哀れみを受けた者になり永遠の命を与えるように定められた者であるかどうかをどのように分かりますか？＂という質問です。

第一に、永遠の命を与えるように定められた人は十字架につけられて死なれ、復活なさったイエス様を唯一な救い主として信じます。自分なりのキリストと救いに対する固定観念のため聖書を読んで説教を聞きながらも聖書通りに信じずにこのように正しい信仰を持つことができない人々がいます。第二、神様が永遠の命を与えるように定められた人は躓きません。＂つまずきは避けられない＂とイエス様が言われました。逼迫と脅威、誘惑、艱難、他の聖徒の聖徒らしくない言行等が躓くようにする原因です。そして聖書から自分が聞きたい言葉だけ聞いて見たいことだけ見ようとする人は躓きます。イエス様の弟子になろうと従ったがイエス様が言われるお言葉の中で受け入れるのに困難なお言葉があるとして躓いて離れた者が多くいます。聖書から自分が聞きたい言葉だけ聞いて見たいことだけ見ようとする人は異端に引っ張られたり教会を離れることを見ることができます。また、自分の肉親的な夢を叶えるための目的でイエス様を信じると躓くようになる日が到来します。

どんな場合でも躓かない人は神様が永遠の命を与えると定められている人です。真実な心で主を愛する人はたとえ肉親が弱くて倒れても直ちに回復し立ち上がります。神様の審判と天国と地獄に対して記録された神様のお言葉を固くつかむ人は躓きません。苦難の中でもキリストの審判台で受ける称賛と賞を慕うので悪人の栄えを羨みません。イエスキリストを信じる信仰に最高の価値と意味を置く人は躓きません。信仰を失うと全てを失うという事実を知っているからです。神様が永遠の命を与えると定められた人は礼拝を楽しみます。集まることに励みお祈りに励み、主の事に励みながら生きていきます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様は私の味方である

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

宗教改革者ルターは今日の本文がある詩編 118 編を愛用しました。 彼は告白するのを “どんな皇帝や王たちまたはこの地のどんな人も私を助けることができなかった状況を私が乗り越えるようにこの詩編が私を助けてあげた。これは私の詩編であり、私が選んだ詩編である。” としました。 “神様は私の味方である。” と確信を持って言える人は万事に期待感を持って恐れなしに積極的で胆大に処身することができます。 その理由は明白です。 聖書に啓示された神様は全知全能なさって無所不在なさりながら永遠です。 善良で慈しみ深くて真実です。 だから神様が私の味方であるという確信を持てばこころよくようになるしかないです。
ところで誰でも “神様が私の味方である。” と言えばそれが事実になるのではないです。 自分が願うとまたは確信するとそのようになるのではないです。 “神様が私の味方である。” という言葉が実際で事実と符合する話になろうとすれば前提されなければならないことがあります。

第一、神様を仕えるのが生の理由と目的ではなければならなくます。

モセは親がイスラエル人だったが神様の摂理の中でエジプト王女の息子になりました。 彼は王宮で育ちながら学問と武技を習いました。 モセは成長しながら自分にイスラエル民族の血が流れているという事実を念頭に留めおくようになりました。モセの年 40 歳になったある日でした。 彼が王宮の外に出てイスラエル人々がつらく労動することを見てからどんなエジプト人がイスラエル人をなぐることを見ました。 モセはそのエジプト人を打ち殺して砂の中に埋めてしまいました。 明くる日モセがまた出た時イスラエル人の二人が争っていました。 モセが二人の中に正しくない人に言うのを “どうしてお前は同胞をなぐるのか?” と叱りました。 するとその人がモセに食って掛かりながら “あなたがエジプト人を殺すであるように私を殺そうと思いますか?” しました。 モセはその人がエジプト王に彼を告発することを分かりました。 そして王宮を発って逃亡者になりました。 実際にエジプト王はモセを殺そうと探しました。
モセはとても遠くミデアン人々が住んでいる所に行きました。 モセはエジプトの王子でミデアンの羊飼いで転落しました。 モセはエジプトでお尋ね者になったから動くことができずにミデアン女人と結婚して息子を生んで暮しました。 歳月ははかなく経って 40 年が経ってモセ年 80 高令になりました。 ある日、羊を導いてホレブ山に至った時彼はしばの木が燃えているのにしばの木が燃えない場面を見ました。 奇妙に思って近付いたがしばの木で神様の呼ぶ音声が聞こえました モセはエジプトに行ってイスラエル子孫を救出しなさいという神様の命令を受けました。
ついにモセが王宮に行ってエジプト王に会いました。 モセの要求をきいて嘲笑ったエジプト王が結局はモセにたじたじとなるようになりました。 その理由は神様が十種の災いを下げたからであると話せます。 ナイル川の水が血になる災い、かえるの災い、ぶよの災い、あぶの群れの災い、家畜がひどい伝染病で死ぬ災い、人と獣に激しい疫病とうみの出るはれものができる災い、癰の災い、イナゴの災い、三日間の昼が漆黒のような闇で覆われる災い、長子が死ぬ災いに適ったから降参いたるざるを得なくなったのです。
ところで私たちが通り過ぎてはいけない非常に重大な事実があります。 このような災いがエジプトに近づくようになった根本原因が何やらかです。 モセがすぐに言うように下さる神様のメッセージはこれです。 “ヘブル人の神様エホバのお言葉に私の民を送りなさい彼らが私を仕えさせなさい。” このお言葉に途方もない威力がよりました。 エジプトに下った災いはこのような要求を無視して断った対価であった。
人の存在理由は神様を仕えるのです。 他に言って神様を礼拝するのです。 これは人を作った神様が決めたのです。 神様を仕えるのが究極的な目的になって生きて行く人、神様を礼拝することが存在理由になって生きて行く人はこんなに言ってください。 “神様は私の味方である。” イスラエル民が神様を仕える事に熱心をつくす時は神様が彼ら味方にいらっしゃって彼らを保護して面倒を見ました。 しかし神様仕える事を捨てて偶像を仕えれば彼らを離れ去りました。 そしてイスラエルは侵略されるとかアッスル帝国やバビロン帝国にとりこになって行きました。 私たちはどこで何をしても究極的な目的が神様を仕えるでなければなりません。 そして神様をもっとよく仕えるための目的に進まなければなりません。

第二、神様の味方で思って言って行動しなければなりません。

モセがイスラエル子孫をエジプトから導き出してガナアン地を向けて出発してから 40 年が経ちました。 モセはヨシュアを後継者に指名しました。 ヨシュアはイスラエル子孫がガナアン地を占領して定着させる任務を引き受けました。 彼は民を導いてヨダン川を渡った後に堅固な町ジェリコがある平地に陣を張りました。 ヨシュアがジェリコ町を攻略する方途を調べようと町に近付く行ったのに威風堂々な人が手に刀を抜けて向い合って立っていました。 ヨシュアが質問しました。 “あなたは味方ですか? それとも私たち対敵の味方ですか?” 彼が返事するが “「いや、わたしは主の軍勢の将として今きたのだ」ヨシュアは地にひれ伏し拝して言った 。” としました。 そしてヨシュアに奇妙な戦術をおっしゃいました。 “あなたがた、いくさびとはみな、町を巡って、町の周囲を一度回らなければならない。六日の間そのようにしなければならない。七人の祭司たちは、おのおの雄羊の角のラッパを携えて、箱に先立たなければならない。そして七日目には七度町を巡り、祭司たちはラッパを吹き鳴らさなければならない。そして祭司たちが雄羊の角を長く吹き鳴らし、そのラッパの音が、あなたがたに聞える時、民はみな大声に呼ばわり、叫ばなければならない。そうすれば、町の周囲の石がきは、くずれ落ち、民はみなただちに進んで、攻め上ることができる」。 ” ヨシュアは神様の指示どおり行いました。
するとジェリコの鉄壁の町が崩れ落ちました。 “あなたは味方ですか? それとも私たちの対敵の味方ですか?” というヨシュアの質問に対して “いや、わたしは主の軍勢の将として今きたのだ」” と言った返事には重要な教訓があります。 これは“私があなたの味方になるのを願ったらあなたが先ずに私の味方になりなさい。” という意味です。
私たちが神様の味方に止まろうとすればどうすれば良いだろうかを具体的によく見ます。 記録された神様のお言葉に適当なのかを察してそのお言葉の味方を選ぶのが神様の味方に止まるのです。 そして神様の品性に適当な方を選ぶのが神様の味方に止まるのです。
ペテロ使徒が聖殿の門の前で物乞いするいざりを起こしました。 これを奇妙に思って集まって来た群衆にペテロが福音を伝えたら五千人がイエスキリストを信じるようになりました。 祭司と聖殿の管理者とサンヘドリン公会がペテロとヨハネを審問するために集まりました。 審問の核心はペテロとヨハネがいざりを直した事件に対するのでした。 何の権勢と誰の名前にこの事を行ったかと聞きました。 ペテロはナザレ イエスの名前でいざりがいやされたと言いました。 そして
“この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。”（使徒行伝 4:12）しました。 公会員は使徒の事実に根拠した論理整然としている弁論に対して弁駁することができなくなりました。
彼らはイエスキリストの名前で現われる結果に対して恐ろしがりました。 そして使徒に厳命するのを “まったくイエスの名前で言わなくて教えない。” としました。 ペテロとヨハネは堂々な態度で胆大に答えました。 “ペテロとヨハネとは、これに対して言った、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」。”（使徒行伝 4:19,20）. 使徒の返事は名言の中に名言です。 サンヘドリン公会員は神様の法と義より大衆の態度にもっと左右されました。 自分たちの私慾に左右されました。 一方に使徒はイエスキリストのお言葉味方に止まって行動しました。 何が真実なのかを分かろうと努力して、真実が分かれば真実の味方に止まる人々は神様の味方に止まる人です。 サタンの国は偽りの上に建てられて神様の国は真実の上に建てられます。 真実は神様の永遠な品性なので神様は真実を探して真実の味方に止まるその人の味方にいらっしゃいます。

皆さんが “神様は私の味方である。” と言いたければいつも神様のお言葉の味方に立ち、真実を追い求めて真実の味方に止まらなければなりません。 そんなにするのが神様の味方に止まるのです。 そんなにするのが詩編記者といっしょに “主がわたしに味方されるので、恐れることはない。人はわたしに何をなし得ようか。主はわたしに味方し、わたしを助けられるので、わたしを憎む者についての願いを見るであろう。主に寄り頼むは人にたよるよりも良い。” と言う楽しさを持つように願いします。